あなたの血管は 大丈夫?

血液検査で脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクをチェック!

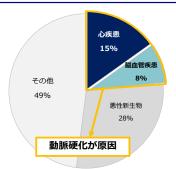
LOX-index®

◆ガンより怖い?動脈硬化

日本人の死因の第1位はガンですが、動脈硬化が原因とされる脳血管疾患、心疾患の合計数は同水準にあります。 また、脳血管疾患と心疾患は、医療の進歩で一命を取り留める確率は高くなっていますが、患者数は増加の一 途を辿っています。特に脳血管疾患は寝たきりの原因のトップで、命を取り留めても重い後遺症を残す場合も あります。

日本人の疾患別死亡者数

患者数



疾患名	患者数	
悪性新生物(ガン)	約152万人	
心疾患(高血圧を除く)	約161万人	約284万人
脳血管疾患	約123万人	*9284/JX

出所: 厚生労働省「平成29年(2017)人口動態統計(確定数)の概況 より

出所: 総患者数/厚生労働省 平成23年患者調査

脳梗塞や心筋梗塞は、高血圧や脂質異常症などの生活習慣病から、動脈硬化を経て引き起こされます。動脈硬 化は無自覚のうちに発症し、時間をかけて進行していきます。動脈硬化性の疾患は突発的に発症して、最悪の 場合、そのまま命を奪うこともあるため、日頃からの予防意識が重要です。



◆まずは今の生活習慣をチェック!

□ ストレスで体調を崩しやすい。 □ 肥満 (肥満ぎみ) である。※BMI = 体重kg ÷ (身長m×身長m)が25以上 □ 脂っこい食事や塩辛い食べ物が好きだ。 □ 野菜、海藻類をあまり食べない。 □ 定期的に(週2回以上)運動をしていない。 □ タバコを毎日吸う。もしくは吸っていた。 □ 週に5日以上お酒を飲む。 □ 血圧、血糖値、脂質が高いと指摘されているが、まだ薬を使用していない。 □ 40歳以上である。 上記の質問で4項目以上当てはまる方は LOX-index®を受診して、血管の状態を確認してみましょう!

◆LOX-index®検査つて何?

検査では血液中の酸化した超悪玉コレステロール[酸化変性LDL]と、それを血管の壁に取り込んで動脈硬 化を進ませる [LOX-1] というたんぱく質を測定します。検査によって得た解析データを過去の臨床デー タと照らし合わせ、動脈硬化の進行から将来の脳梗塞や心筋梗塞の発症危険度(リスク)を予測いたします。

採血(約2ml)で検査可能

動脈硬化の原因物質を測定

脳梗塞・心筋梗塞の 将来の発症リスクを予測

健康な状態 酸化ストレス 内皮細胞への刺激 動脈硬化の進行 脳梗塞・心筋梗塞の発症 血管の状態 認識している状能









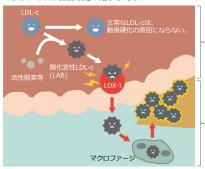
自覚症状がなく発症するまで進行に気づかない状態

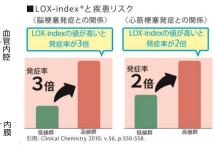
LOX-index

病気を見つけるのではなく、未病に近い段階から生活習慣を改善し早期の予防へ

◆動脈硬化の原因物質を測定

原因はLDLコレステロール(悪玉)ですが、その中でもサビ付いた酸化変性LDLコレステロール(LAB)が「最大の悪玉」です。この酸化変性LDLが、血管にあるLOX-1というたんぱく質と結合すると、血管に炎症が生じます。これが動脈硬化の始まりです。

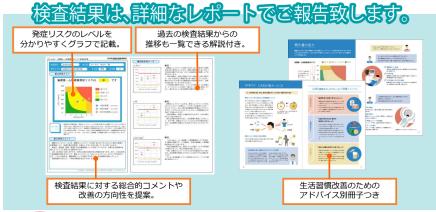




※LOX-index®は、酸化変性LDL(LAB)とLOX-1を掛け算した値です。

日本人約2,500名を平均約11年間追跡調査を行った結果、LOX-index®の値が高いと将来の脳梗塞の発症率は約3倍、心筋梗塞の発症率は約2倍となることがわかっています。

LOX-index®検査で血液の状態・動脈硬化の進行度合いを定期的に確認することで、将来の脳梗塞・心筋梗塞の早期予防につながります。



今からでも 遅くない!

改善が可能です!!

結果が悪いからといって落ち込む必要はありません。動脈硬化の原因はさび付いたLDLコレステロール(LAB)であるため、サビ付きを抑制することで、予防が可能といえます。サビ付きを抑える具体的な方法に関しては、検査結果をもとに指導があります。自分自身でできることから実施し、続けることが重要です。

■サビ付きを防ぐ基本的な取り組み例





よくあるご質問

O. 実際に脳梗塞になっているか分かりますか?

いいえ。実際に脳梗塞になっているかどうかを見ているのではなく、将来的に脳梗塞や心筋梗塞になりやすい状態にあるかどうかを調べるための検査です。

O. 検査は一度だけ受ければよいの?

採血した時点の体質を見るものとなりますので、年に一度程度、健診や人間ドックに併せてのご受診をお勧めします。数値は食生活や運動の習慣によって改善することも可能です。

Q. 検査結果が悪かった場合は?

検査レポートのアドバイスに従って生活習慣などの見直しを行うことをお勧め致 します。また、実際に動脈硬化が進行している可能性も高いので、必要に応じて 血管の硬さやつまり具合を調べる検査の受診もお勧めします。

Q. 誰でも受診できるの?

妊娠中は受診をお控えください。妊娠中、出産後3か月以内の方は検査数値が高く出る傾向があります。また、リウマチ、熱がある場合にも検査数値が高く出る可能性がございます。

脂質異常症治療薬、抗凝固薬、抗血小板薬、降圧薬、を服用されている方は検査 数値が低く出る可能性がございます。